

## 血液、母乳中のダイオキシン濃度と 関連要因 - パイロット研究 -

中井里史（横浜国立大学環境科学研究センター）  
林 邦彦（群馬大学医学部保健学科医療基礎学）  
山本正治（新潟大学医学部衛生学教室）

今日社会的問題となっているダイオキシンの規制を考えるためには、適切な評価手法さらには曝露評価や健康影響などの基礎データが必要不可欠である。本研究はこれらの基礎データを得ること、また今後のダイオキシンによる健康影響等の研究の方向性を探ることを目的として、少数の地域住民を対象とした血液中ダイオキシン濃度の測定を行った。

異なる2つの対象者群に対して測定を実施した。第一群は、農薬散布や魚食を中心とした食事によるダイオキシン摂取量の違いを探るために、新潟県内居住する50歳代の男性30名とした。30名の内訳は農業従事者、漁業従事者が各10名であり、摂取量の比較を行うために、一般市民を比較対照群として設定した。対象者の第2群は、群馬県内で実施している「医療従事者を対象とした女性の健康に関する疫学調査」に参加している女性のうち、出産後10ヶ月以内の者を対象とし、血液中及び母乳中のダイオキシン濃度測定を行った。血液および母乳採取に加えて、ダイオキシン曝露に影響を及ぼすと考えられる職歴、食事歴に関する情報を、自記式質問票を利用して得た。なお、いずれの調査においても、本調査の趣旨について十分な説明をした後、書面にて同意を得た。ダイオキシンは（株）島津テクノリサーチに分析を委託し、コプラナPCBも含む99異性体の分析を行うこととした。

第一群では29人（農業従事者10人、漁業従事者10人、対照者9人）の血液サンプルが得られた。第二群に関しては2人からサンプルを得ることができた。抄録作成時で試料分析中であるが、濃度レベルのみならず異性体分布にも注目し、職種や食事歴などの違いなどの点に関して検討を加え報告する予定である。

本研究は平成11年度厚生科学研究費補助金（生活総合安全事業）による「ダイオキシンの健康影響と規制手法に関する研究（研究代表者：横浜国立大学教授 中西準子）」の一環として実施した。調査にご協力いただきました対象者の方に深く感謝いたします。